

質問 1-11 天ヶ瀬ダムの洪水調節容量が不足するとどのような問題が生じるのでしょうか。

(回答)

- 洪水調節容量とは、分かり易く言えば、洪水をダムで調節するために必要な貯水池の大きさのことを言います。
- この容量の決め方については、「河川砂防技術基準・計画編」(平成 17 年 7 月改訂, p138)に以下のとおり定められています。

洪水調節のための貯水容量(洪水調節容量)は、洪水調節計画で対象とするハイドログラフ及び調節方式から設定するものとする。この場合、原則として 2 割程度の余裕を見込むものとする。

- 上記のとおり、洪水調節容量には、どのダムにおいても同様に 2 割程度の非常用の容量を見込んでいます。
- しかし、余裕を見込んでいるからと言って、この容量を洪水調節のために継続して活用すると、
 - ・ 貯水池が満杯になるので、さらに水位上昇させられなくなり、
 - ・ 緊急に放流量を流入量と同量まで増加させなくてはならず、
 - ・ 下流の水位を急激に増加させ、危険を招き、
 - ・ 住民の避難時間も十分にとれないことになるなど、大変な被害が発生する恐れがあります。

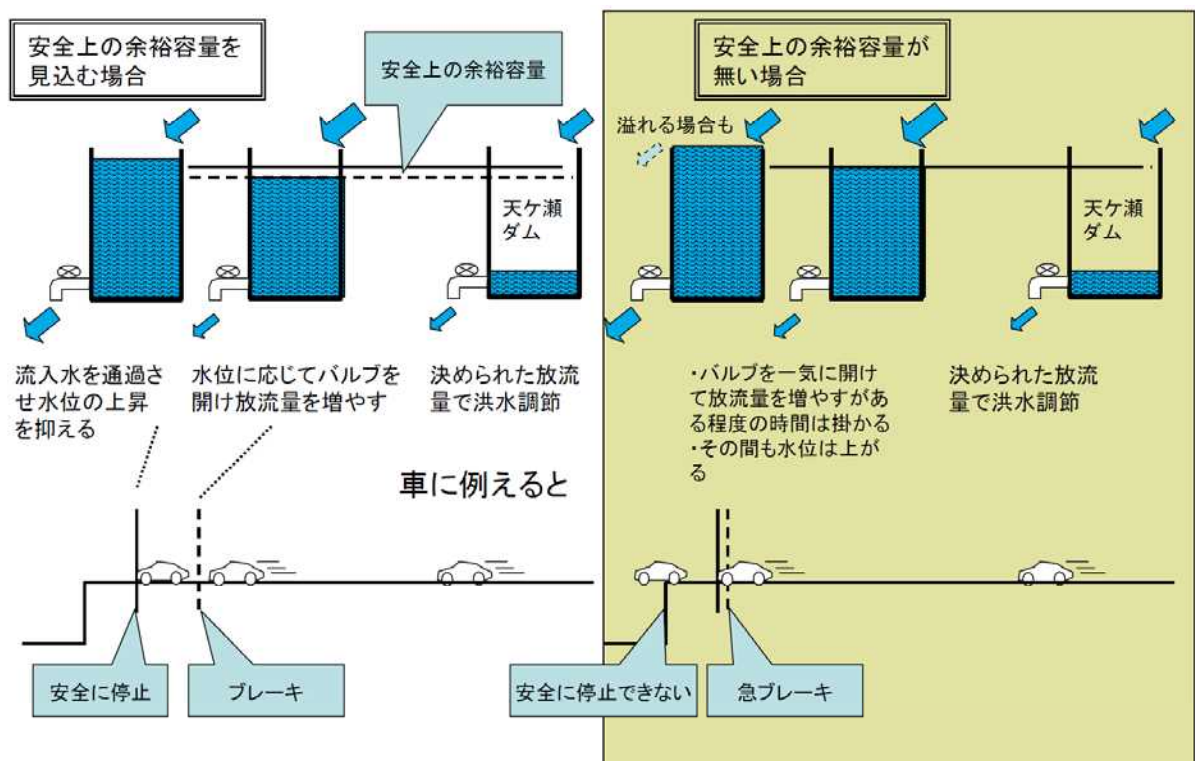


図 安全上の余裕を見込む場合と安全上の余裕がない場合のイメージ

(関連資料)

- 平成 21 年 1 月 7 日 淀川水系河川整備計画(案)に関する技術的解説
http://www.kkr.mlit.go.jp/river/yodo_sui/index3.html
 - 平成 20 年 11 月 10 日 「喜撰山ダム等既存施設の有効活用に関する検討」記者発表資料
http://www.kkr.mlit.go.jp/river/yodo_sui/pdf/kisennyama.pdf
- ※上記の資料は、淀川水系河川整備基本方針・河川整備計画策定に向けての取り組みのホームページに掲載しています。
http://www.kkr.mlit.go.jp/river/yodo_sui/

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。